

## 1.研修プログラムの名称

乳腺科研修プログラム

## 2.研修概要（理念・特徴）

日本の女性の乳癌罹患率は増加の一途をたどり、本邦での乳癌に対する医学的さらには社会的関心の高まりは、自然の成り行きと云える。当科はその時代のニーズに呼応する形で誕生した。今まで第一外科、第三外科双方で独自に行われてきた乳癌を中心とする乳腺疾患の診療を、臓器別という枠組みで再編成統合され、東京医科大学病院乳腺科は、平成 17 年に新たに開設された診療科である。

当院に於ける年間の原発性乳癌手術症例数は毎年 250 例を超え、都内にある大学病院でも有数である。豊富な症例数を背景に、的確な早期診断と世界標準の治療を踏まえた上で、患者ひとりひとりに最もふさわしい「テーラーメイド」治療を心がけている。また、さらに整容性の高い手術を行うために形成外科との密接な協力体制をとっており、乳房再建の提供にも努めている。

疾患的特徴ともいべき多くの進行再発乳癌に対しても、治療の方向付けをするという大学病院の使命から、化学療法、分子標的療法、内分泌療法、放射線療法、レーザー治療、疼痛コントロールなど、積極的に診療に取り組んでいる。更に進行・再発患者の緩和医療も、科内に緩和ケアチーム兼任医師が従事しており、院内緩和ケアチームとともに力を入れている。

研究では、多くの全国規模の臨床試験に参加し、病理部と連携してトランスレーショナルリサーチにも取り組んでいる。

## 3.到達目標

ホルモン標的臓器で、女性にとってかけがいのない乳房について、その構造、機能、重要性を理解した上で、乳癌をはじめとした乳腺疾患の病態を理解し、最新の診断、治療を修得すると同時に、ひとりの人間として患者と向き合う医師の基本姿勢を修得する。

## 4.指導体制・方略

研修はおもに病棟において行う。診療科長または指導医、後期研修医とともに毎日回診し、直に患者に接する。看護記録なども参考に患者の経過、全身状態をカルテに記載する。

入院患者の手術および術前術後管理、ベッドサイドでの処置、全身化学療法、ホルモン療法、放射線療法などの実際を体験・理解する。

なお本プログラム研修中、院内緩和ケアチームの回診、カンファレンスにも参加が可能である。

## 5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
AM	病棟回診 14A 病棟	病棟回診 14A 病棟	07:30～ 術前術後検討 (8階 病理カンファ レンスルーム) 手術	病棟回診	病棟回診 14A 病棟 手術	病棟回診 14A 病棟 手術
PM	病棟回診	病棟回診 術前カンファ準備	手術 緩和ケア回診	病棟回診	手術 病棟回診	
17:00 ～	医局会 (研究棟 10階)					

## 6.カンファレンス

毎週水曜の朝7時半から、乳腺科・放射線科・病理診断部・形成外科・検査技師と多職種カンファレンスを行っている。カンファレンスでは、術前症例の術式および術後治療の検討を中心に行っている。研修期間中にカンファレンスに参加し、指導医の指導のもとで、症例のプレゼンテーションの機会を設ける。

## 7.研修活動

- ・手術の見学、および、助手として乳腺科領域の手術を経験する
- ・病棟実習では、周術期の管理や化学療法をはじめとした薬物療法の実際、終末期の緩和医療を経験する
- ・希望者は、乳腺科外来での診察の見学や超音波検査および針生検の見学および実施が可能である

## 8.評価

### 1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

### 2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

### 3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

### 4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

## 9.その他特記事項

研修中に実地臨床での修得と併行し、乳腺疾患の手術、診断、治療に関する論文、書籍を適宜参考にされた。本学の「自主自学」の理念に基づいて学習し、乳腺科研修が将来役に立つように専心して頂きたい。

代表的な乳腺疾患の診断・治療のガイドラインを理解している

なお本プログラム研修中、院内緩和ケアチームの回診、カンファレンスにも参加が可能である。院内の横断的なチーム医療に参加・経験することで、その活動の理解を深めることをめざす。

## 10.研修中に作成する病歴要約

（**赤太字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

### 経験すべき症候

発熱、呼吸困難、嘔気・嘔吐、便通異常(下痢・便秘)、終末期の症候

### 経験すべき疾病・病態

高血圧、うつ病、統合失調症